

社会教育研究部門

## 「教育と公共」研究部会（第15回）

日時：2020年7月10日（金）13:00～16:20

場所：オンライン「ZOOM」で開催

出席：田嶋一・浅井幸子・上野正道・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員  
吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

内容：（1）藤井研究員の報告：研究テーマ「人間形成（Bildung）と公共の関係について考える  
—交差点としての市民と政治」から、ガート・ビースタの論文第2章を紹介

◆「どのようにして Bildung は一般的なものになりうるのか？—近代の教育理念の未来  
についての反省的見解」（Gert Biesta 2019 How General Can *Bildung* Be? Reflections on the Future of a Modern Educational Ideal. in *Obstinate Education: Reconnecting School and Society*, Sense Brill, Chapter 2 pp.23-28）  
の邦訳から

- ・イントロダクション
- ・Bildungの簡単な歴史
- ・Bildungの喪失、Bildungの復活
- ・Bildungはどのようにして一般的になることができるのか？
- ・認識論的解釈：普遍的なものとしての一般的なもの
- ・知識社会学からの解釈：社会的構築物としての一般的なもの
- ・Bildungの批判理論と批判的教育学
- ・ネットワークアプローチ：ローカルの非対称の拡張としての一般的なもの
- ・結語

（2）浅井研究員の報告：「教育的コミュニケーションとしてのレッジョ・エミリア：ピーター・モスの議論から」として、レッジョ・エミリアの幼児教育をモスの分析・見解を中心に以下の項目で紹介し、レッジョ・エミリアの教育の事例を報告

1. レッジョ・エミリアの幼児教育
2. リアル・ユートピアの探求
3. 教育的コミュニケーションの責任
4. 事例
  - ①ストックホルム・プロジェクト
  - ②オンタリオ州の政策

・次回研究会は、8月27日（金）13時から、オンライン「ZOOM」で開催予定  
報告者は田嶋、狩野各研究員